

## 科学技術をめぐる社会情勢の変化

### ■ 国内外の情勢変化

- 気候変動問題への対応(R3年(2021年))
  - ・世界的に脱炭素化に向けた動きが加速、カーボンニュートラルの実現に向けては、革新的イノベーションの推進が必要
  - ・政府はR3年(2021)年に「地球温暖化対策計画」を改訂し、2030年度において、温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指すことなどの削減を目標
- SDGsの推進(H27年(2015年)国連サミットで採択)
  - ・貧困やエネルギー、気候変動など持続可能な開発のための諸目標の実現には、科学技術イノベーションの役割が重要
- 新型コロナウイルス感染症の拡大(R2(2020年)～)
  - ・感染拡大防止と経済活動維持のためのスピード感のある社会変革が迫られている
  - ・テレワークやオンライン教育を始め新しい生活様式への変化
- ウクライナ情勢による国際社会の変化(R4年(2022年))
  - ・原油や原材料の価格の高騰や供給への懸念、産業等の活動への影響

### ■ 科学技術に関する国の動向

- 科学技術・イノベーション基本法の改正(R3年(2021年)4月施行)
  - ・科学技術・イノベーションの急速な進展により、人間と社会の在り方と科学技術・イノベーションとの関係が密接不可分となっている現状を踏まえ、人文科学を含む科学技術の振興とイノベーション創出を一体的に推進
- 第6期科学技術・イノベーション基本計画の策定(R3年(2021年)3月)
  - ・我が国が目指すべきSociety5.0の未来社会像の実現に向けた「総合知による社会変革」と「知・人への投資」の好循環を起こしていくとしている
- 科学技術立国の推進(R3年(2021年)11月 新しい資本主義実現本部緊急提言)
  - ・科学技術・イノベーションへの投資を強化、スタートアップの支援等
  - ・デジタル、グリーン、人工知能、量子、バイオ、宇宙などの先端科学技術の研究開発・実証

### ■ 本道が抱える課題の増大と複雑化

- 人口減少と少子高齢化の急速な進行
  - ・人手不足、生産・消費の縮小、医療・地域交通・物流の維持・確保
- 「ゼロカーボン北海道」の実現
  - ・2020年3月、道は、「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」ことを表明。再生可能エネルギーと森林などの吸収源の最大限の活用により、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現をめざしている
- 「北海道Society5.0」の実現
  - ・DXの推進、デジタル人材の育成・確保
  - ・ICT・IoTの社会実装による地域課題の解決と新産業の創出
- 大規模自然災害リスクの高まり
  - ・北海道胆振東部地震や頻発する豪雨・雪害など自然災害による被害を踏まえ、防災・減災の取組が必要